



定期接種



任意接種



ワクチン	種類	標準的接種年齢と接種期間	日本小児科学会の考え方	注意事項
インフルエンザ菌 b 型 (ヒブ)	不活化	①-②-③の間はそれぞれ 3-8 週あける ③-④の間は 7-13 か月あける	(注 1) ④は 12 か月から接種することで適切な免疫が早期に得られる。1 歳をこえたら接種する	7 か月-11 か月で初回接種：①、②の後は 7 か月以上あけて③、1 歳-4 歳で初回接種：①のみ 定期接種として、①-②-③の間は 27 日以上、③-④の間は 7 か月以上あける リスクのある患者では、5 歳以上でも接種可能
肺炎球菌 (PCV13)	不活化	①-②-③の間はそれぞれ 27 日以上あける ③-④の間は 60 日以上あけて、1 歳から 1 歳 3 か月で接種	(注 2) 定期接種で定められた回数の PCV7 接種を終了した 6 歳未満の児は、最後の接種から 8 週間以上あけて PCV13 の追加接種を 1 回行う (ただし任意接種)	7 か月-11 か月で初回接種：①、②の接種後 60 日以上あけて 1 歳以降に③ 1 歳-23 か月で初回接種：①、②を 60 日以上あける、2 歳-4 歳で初回接種：①のみ (注 2) PCV7 の接種が完了していないものは残りの接種を PCV13 で実施する
B 型肝炎 (HBV)	不活化	ユニバーサルワクチン：①-②の間は 4 週、①-③の間は 20-24 週あける 母子感染予防のためのワクチン：①生直後、②1 か月、③6 か月	ユニバーサルワクチン：全ての子どもに接種、接種開始時期は、旧 B 型肝炎母子感染防止事業に沿った接種スケジュール (生後 2、3、5 か月)、接種時期に関しては、今後の検討が必要 (注 3) 乳児期に接種していない児の水平感染予防のための接種、接種間隔は、ユニバーサルワクチンに準ずる	詳細は「B 型肝炎ウイルス母子感染予防のための新しい指針」、下記を参照 <a href="http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=141">http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=141</a>
ロタウイルス	生	生後 6 週から接種可能、①は 8 週-15 週未満を推奨する 1 価ワクチン (ロタリックス®)：①-②は、4 週以上あける (計 2 回) 5 価ワクチン (ロタテック®)：①-②-③は、4 週以上あける (計 3 回)		(注 4) 計 2 回、②は、生後 24 週未満までに完了すること (注 5) 計 3 回、③は、生後 32 週未満までに完了すること
四種混合 (DPT-IPV)	不活化	①-②-③の間はそれぞれ 20-56 日までの間隔 (注 6) ③-④の間は 6 か月以上あけ、標準的には ③終了後 12-18 か月の間に接種		DPT、IPV、OPV を 1 回も受けていない者を対象として 4 回接種 定期接種として、①-②-③の間はそれぞれ 20 日以上あける
三種混合 (DPT)	不活化			(注 7) 三種混合 (DPT) とポリオ (IPV) を別々に接種する場合
ポリオ (IPV)	不活化	①-②-③の間はそれぞれ 20 日以上の間隔 (注 6) ③-④の間は 6 か月以上あけ、標準的には、③終了後 12-18 か月の間に接種	可能な場合は三種混合ワクチンとの同時接種を行う	(注 7) 三種混合 (DPT) とポリオ (IPV) を別々に接種する場合 2012 年 8 月 31 日以前にポリオ生ワクチン、または、ポリオ不活化ワクチンを接種し、接種が完了していない児への接種スケジュールは、下記を参照 <a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/dl/leaflet_120601.pdf">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/dl/leaflet_120601.pdf</a>
BCG	生	12 か月未満に接種、標準的には 5-8 か月未満に接種	結核の発生頻度の高い地域では、早期の接種が必要	
麻疹、風しん (MR)	生	①：1 歳以上 2 歳未満 ②：5 歳以上 7 歳未満 (注 8) 小学校入学前の 1 年間		麻疹曝露後の発症予防では、麻疹ワクチンを生後 6 か月以降で接種可能、ただし、その場合、その接種は接種回数には数えず、①、②は規定通り接種する
水痘	生	①：生後 12-15 か月 ②：1 回目から 3 か月以上あける (注 9) 3 歳-5 歳未満の児には定期接種として 1 回接種 (2014 年度限りの経過措置)	予防効果を確実にするために、3 歳以上の児に対しても 2 回接種が必要	13 歳以上では、①-②の間を 4 週間以上あける
おたふくかぜ	生	①：1 歳以上	(注 10) 予防効果を確実にするために、2 回接種が必要 ①は 1 歳を過ぎたら早期に接種、②は MR と同時期 (5 歳以上 7 歳未満で小学校入学前の 1 年間) での接種を推奨	

ワクチン	種類	標準的接種年齢と接種期間	日本小児科学会の考え方	注意事項
日本脳炎	不活化	①、②：3歳、①-②の間は6-28日までの間隔 ③：4歳 ④：9歳（小学校3-4年生相当）		定期接種では、生後6か月から生後90か月（7.5歳）未満（第1期）、9歳以上13歳未満（第2期）が対象、①-②の間は6日以上、③は②より6か月以上の間隔をあける 2005年5月からの積極的勧奨の差し控えを受けて、特定対象者（平成7年4月2日から平成19年4月1日生まれの者）は、20歳未満まで定期接種の対象、具体的な接種については下記を参照 <a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou20/annai.html">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou20/annai.html</a>
インフルエンザ	不活化	①-②の間は4週（2-4週）あける		13歳未満：2回、13歳以上：1回または2回、 1回接種量：6か月-3歳未満：0.25mL；3歳以上：0.5mL
二種混合（DT）	不活化	①11歳から12歳に達するまで	百日咳患者の増加から、DPTへの移行が必要	予防接種法では、11歳以上13歳未満
ヒトパピローマウイルス（HPV）	不活化	中学1年生女子 2価ワクチン（サーバリックス®） ①-②の間は1か月、①-③の間は6か月あける 4価ワクチン（ガーダシル®） ①-②の間は2か月、①-③の間は6か月あける		接種方法は、筋肉内注射（上腕三角筋部） 予防接種法では、12歳-16歳（小学校6年生から高校1年生相当）女子 （注11）2価ワクチンは10歳以上、4価ワクチンは、9歳以上から接種可能 （注12）標準的な接種ができなかった場合、定期接種として以下の間隔で接種できる（接種間隔が2つのワクチンで異なることに注意） 2価ワクチン：①-②の間は1か月以上、①-③の間は5か月以上、かつ②-③の間は2か月半以上あける 4価ワクチン：①-②の間は1か月以上、②-③の間は3か月以上あける